

# みせん

瀬戸内海国立公園  
宮島地区パーク  
ボランティアの会

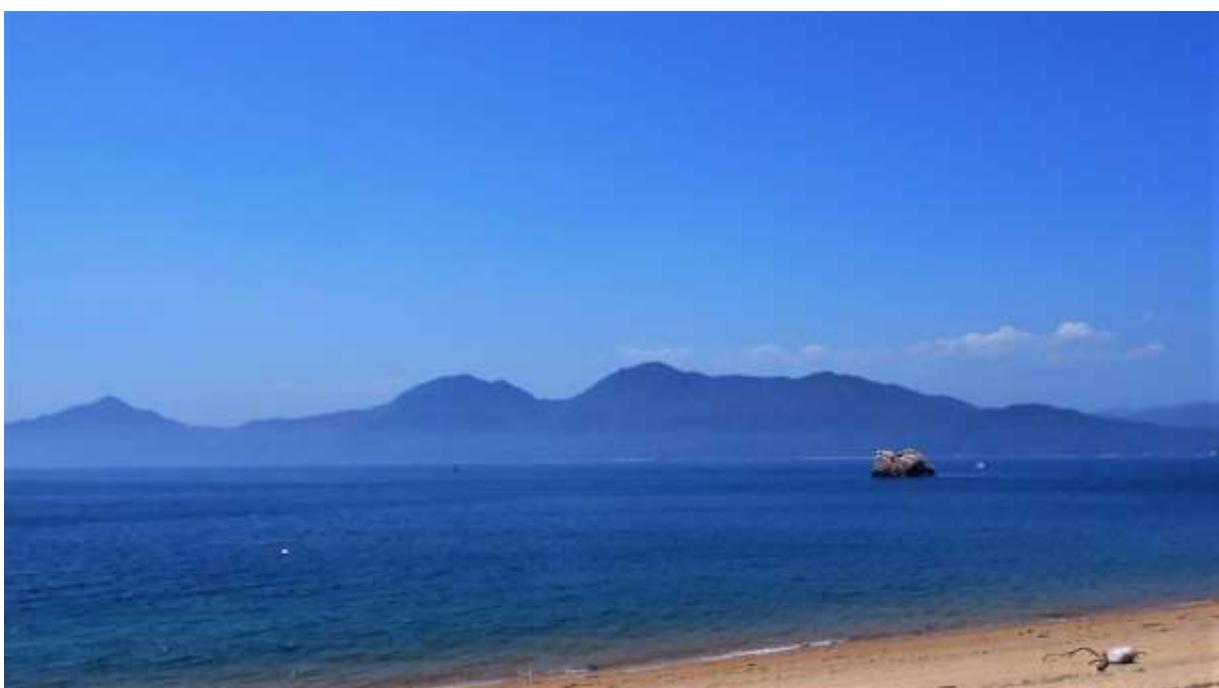
第77号

発行日  
令和元年9月1日

## ◇ 目 次 ◇

- P-2: 入浜池補足調査①
- P-3: 公募観察会(植物・史跡)鷹ノ巣高砲台
- P-5: 自主観察会(3)島外調査(阿多田島)
- P-7: 入浜池定点観察①・維持管理作業①
- P-9: 環境省研修会(ダニ講習)
- P-10: 自主観察会(4)干潟調査
- 公募観察会(7/30)下見
- P-10: 嶽島神社前海浜清掃作業(管絃祭)
- P-11: 入浜池定点観察②・維持管理作業②
- P-14: 公募観察会(自然)鳥居周辺干潟
- P-16: 自然公園クリーンデー
- P-17: 投稿記事 ①②③
- 編集後記

能美島からの宮島も観音様の寝姿



能美島の三高砲台跡と岸根砲台跡を訪ねたあと、岸根海岸から見ていました。およそ3kmの嶽島海峡を挟んで対峙している鷹ノ巣砲台や入浜の海岸はどの辺りでしょう。駒ヶ林をお顔に弥山山頂は胸、そして鷹ノ巣浦の方にならだかに脚が伸びています。いつも見ている廿日市側とは違う宮島弥山の眺めですが、不思議なことに南側から眺めても観音様の寝姿です。

(砲台跡の記事は、18ページ)

(2019. 4.30 岩崎：記)

## 入浜池補足調査①

日 時：5月 18日（土） 9:00～14:30

天 候：曇り

場 所：入浜池

行事推進員：大西 小川 松田 穂井田

参加者：岩崎 大西 小川 小林(覗) 小林(み)

穂井田 横路 参加者 7名



水質調査 (1)



水質調査 (2) 水路

### 【昆虫】小川会員

イトトンボが3種類、シオカラトンボの雄がたくさん飛んでいた。ヤンマ系が1匹、カラスアゲハかナガサキアゲハか区別できなかったのが1匹。池の状況はススキが少なくななりずいぶんと見通しが良くなっています。

### 【水質】横路会員

池の水量は4月より意外と増えている。PHはD地点で5.7（山の水が流れているのがわかる。）C'地点6.3、ABF地点は6.8でした。CODはかなり汚れていてA、中央、C'、F地点で8以上B地点6、D地点7という結果です。山水は水温15℃、PHは7.2、海水は7.7、塩分濃度は測定器故障のため計測できませんでした。池の状況はゴミがA地点になぜかたくさん集まっている。F地点でわずかながら水が海の方向へ流れている。満潮時の水が徐々に流出しているのではないかと思います。

### 【野鳥】大西会員

いつもながら今日観察できるかもしれない種を想定しつつ巡りました。

前回（4月13日）既に渡って来ていたコチドリ2羽は元気にしているだろうか？

釣り人が複数の竿を砂地に立てて歩く姿を見た瞬間に、不安になりました。時間をかけて砂浜を観察しましたが、コチドリの姿は見当たらず。浜を離れて池の周囲の調査を開始。飛び立つものを発見。池に近い水路にいたコチドリを驚かしてしまったのでした。ごめんね！しかし、浜辺で餌を探せない時には水路に移動すれば良いのですね。

この水路であれば、足の短いコチドリも餌を探せることにあらためて気付きました。ほつとするとともに、小鳥の逞しさが嬉しかった。もう1羽はどこ？見つかった場所は、意外にも池より更に林寄りの水害時に流れ出た

土砂などの集積場でした。2羽はきっと産卵場所を見つけるのではないだろうか。天敵に見つかり易い更地だけど、どうか頑張ってほしい。近年増加傾向にあると言われているキビタキが、林の奥のあちらこちらで元気よく囀っていた。姿は見えないけれど、なんと良く響きわたる長い囀りでしょう。今年も順調にこの季節を迎えていました。調査も楽しく終了できました。



コチドリ（写真：大西）

入浜 野鳥定点調査 9:30~11:30

| 種名      | 数  | 種名      | 数  |
|---------|----|---------|----|
| マガモ     | ♂1 | ヒヨドリ    | 2  |
| カルガモ    | 2  | ウグイス    | ♂5 |
| キジバト    | 1  | メジロ     | 5  |
| カワウ     | 2  | キビタキ    | ♂4 |
| コチドリ    | 2  | スズメ     | 2  |
| ミサゴ     | 6  | セグロセキレイ | 1  |
| トビ      | 4  | カワラヒワ   | 4  |
| ハシボソガラス | 1  | ホオジロ    | ♂2 |
| ヤマガラ    | 3  | 計 18 種  |    |
| シジュウカラ  | 2  |         |    |

宮島における区分については、平成11年宮島町発行「宮島の野鳥」を参考にしました。

留鳥

冬鳥

旅鳥

夏鳥

## 公募観察会：植物・史跡 麻／巣砲台跡を訪ねて

日 時：5月25日（土） 9:00～14:30

天 候：晴れ

場 所：包ヶ浦～鷹ノ巣高砲台（車道コース）

行事推進員：北野 山本（昌）

参加者：岩崎 大西 川崎 北野 黒木 河野

小林（勲） 小林（み） 末原 中道 阪田

山本（昌） 横路 以上13名

環境省：山崎自然保護官 大高下 AR

一般参加者：10名



コチドリ（写真：大西）

五月晴れの青空に入道雲を浮かべれば、もう「真夏」。包ヶ浦はまだキャンプ客や海水浴客もなく、気持のいい朝でした。

定刻には一般参加者も会員の参加者も全員揃い、進行役の小林（勲）部会長、環境省の山崎保護官および末原会長の挨拶と諸注意が

あり、北野会員のリードでストレッチで体をほぐしました。そのあと一般参加者を2班に分け、1班（リーダーは北野会員）は10名になりましたが、2班（リーダーは山本（昌）会員）は直前に欠席者がでて5名になりました。



9:40、キャンプ場を後に、車道をゆっくりと登りました。途中、道の左右の樹木名とその特徴についてのわかりやすい説明に全員うなづきながら歩きました。今回、山本会員が樹木名を「A4版白板」に書いてくれたので、後方の人にもわかりやすく好評でした。

今回のコースでリーダーから紹介された樹木名は約30~40種類にもなりましたが、1日経つとどれだけ覚えているだろうといつも思います。テストがないので安心ですが熱心に説明していただいたリーダーには誠に恐縮です。

10:30 小休止、11:00 高砲台入口着、ここから遺跡の説明は中道会員が担当しました。説明には環境省から小型、高性能のハンドマイクが貸与され大変聞きやすくなりました。



方位観測所跡、連隊長司令室跡、便所跡、井戸跡などを見学して登ってきた道を樹木名の復習をしながら引き返しました。見学路は3月に倒木や枯葉の清掃作業を行い、今回も先発メンバーの数人が掃除してくれたおかげで安全に歩けました。



5月11日の自主観察会では方位観測所の床に大きなマムシがいたそうですが（「みせん76号」に掲載のとおり）今回は見つからずホッとしました。

又、今回、はじめて持ち運び式簡易トイレを用意して遠慮なく使用するようPRしましたが、希望はなかったようです。

14:30 包ヶ浦管理事務所前にてアンケートに記入してもらい、無事終了しました。

( 文：川崎      写真：岩崎 )

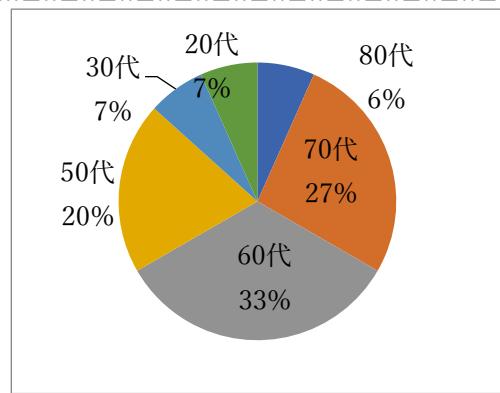
## アンケート結果



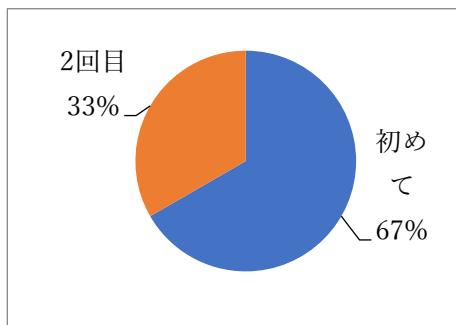
【参加者の性別】

11:40 砲座跡着、早速昼食。12:15 砲台跡、

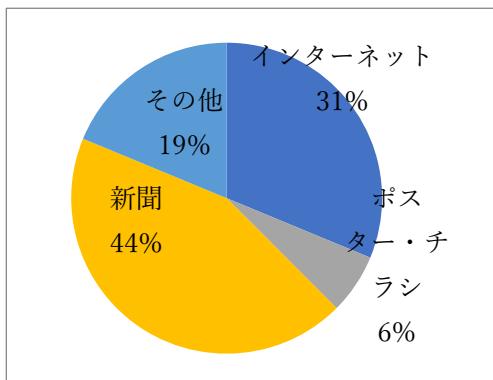
## ◇行事に対する感想・ご意見・要望等



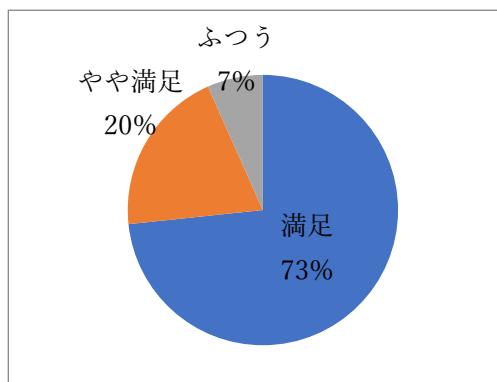
【参加者の年代】



【観察会参加回数】



【行事を知ったのは】



【行事の感想】

- いろいろと細かい案内がよかったです。花が咲いている時期にお願いします。
- 自然観察と歴史観察は別々の方がよかったです。
- 色々説明が聞けて良かった。自分にとっては雑木、されど宮島にしかない木
- ガイド説明の時、マイクを使用していただきたい（後ろの方は少し聞こえにくかった）。ガイドさんに心よりお礼申し上げます。
- ガイドさんはマイクを使用願います。
- 植物、砲台跡地について詳しい説明があったのがよかったです。砲台跡地までの登山道がきれいに維持されているのに感銘を受けました。
- 勉強になった。今度自身で歩いて散策したい。
- とてもわかりやすく教えていただき勉強になりました。又、参加したいです。
- 丁寧に案内していただきました。わかりやすかったです。また、参加させていただきます。
- コースにある歴史や動植物について知る事ができた。
- 植物の名前だけでなく特徴なども聞けて勉強になった。講師の方は親しみやすく説明も面白くよかったです。次回の観察会も是非参加したい。

(まとめ：舛田)

## 自主観察会(3) 島外調査 阿多田島

日 時：6月8日（土）

天 候：晴れ

場 所：阿多田島

行事推進員：北野、小林(み)、山本(章)

参加者：今田 岩崎 大林 北野 黒木 小林(昂)

小林(み) 佐渡 末原 兎谷 平田 二神

森 山本(昌) 吉崎 参加者 15名

小方港 9:30 発、阿多田港着 10:00  
(往復料金一人 1400 円船内で支払い)

点呼終了後阿多田神社参拝

83段の階段上り境内へ。左右に日清戦争当時の実物大の砲弾が祀られていた。日清戦争凱旋記念碑、四脚灯籠等を見学後観音山へ。

前日の雨に藍を深める紫陽花が美しい。登山口に咲くノアザミの色も鮮やかだ。標高 150 メートルの急坂を登る。道の両側に桜の記念樹が植えられている。観音堂を拝み安芸灘の絶景を一望。白石灯台を眺む。

舗道に降りて海の家「あたた」を目指し歩く。舗道にあべまきの実が落ちていた。阿多田島灯台資料館を見学。庭の望遠鏡で訓練中の潜水艦を見る。

次いで田の浦海岸へ降りる。ゴミの漂着は多いが海の水は澄んでいた。煉瓦造りの灯台燃料倉庫があった。

海の家「あたた」で昼食。一部の会員は館内のテーブルを使わせて頂いた。海の家周辺や

島の道辺に野生の枇杷が熟れてひと際目立つ。小さいが口に頬張ると美味しく乾いた喉を潤してくれた。

昼から島を半周する形に植物観察をしながら港を目指して歩いた。ヤマツツジ、ティカカズラ、ナワシロイチゴ、オカトラノオ、季節外れのワラビ、ウドの芽、竹やぶ、など。ヒマラヤ桜の木を見学。山本会員の説明を聞く。皮を脱ぎ終わった今年竹が天を突く勢いだ。山道の崩壊もところどころ目につく。

ハマチ養殖場に釣り客が群れている光景が見えた。

全体的に宮島の植生とはだいぶ違うなあと言う印象を受けた。



阿多田島よりの宮島全景



阿多田島漁港



阿多田灯台資料館



田の浦海岸

( 文 : 黒木      写真 : 岩崎 )

## 阿多田島五句

令和元年 6月 8日

釣り堀の客で賑わう阿多田島

枇杷熟れて島の枝道赤々と

砲弾を祀る社や風薰る

安芸灘の卯波逆立て潜水艦

夏わらび摘みつつ帰り島の道

黒木 隆信

### 【清掃】吉崎会員

6月22日の入浜の水路は池からの水もスムースに流れています、ゴミや砂の堆積もあまり目立たない状況であり、作業は一部の堆積した砂の移動のみで片付きました。



水路の状況（吉崎）

海岸の砂浜は非常に綺麗で、いつもに比べてカキ養殖用パイプの量が1/10以下程度しかないと感じられ、誰かが前日までに清掃活動をされたように見受けられた。

ただ、清掃は海岸部分のみのようで、入浜池の周辺ではかなりのカキ養殖用パイプがみられた。



海岸の状況（吉崎）

それでもゴミの量はゴミ袋6袋になったし、誰かが海岸で宴会をして酒瓶を放り投げて帰ったような跡もあり、夏になったのだと思った。

### 【植物】小林（み）会員

ホウロクイチゴが花も実もあり実をおいしくいただきました。ヒトモトスキがやっと蕾あげています。ハンゲショウの花が咲いています。



集合写真（河野）

ました。葉っぱが半分白くなっています。花が目立たないので昆虫を誘うことができない。そこで花に近い葉の半分ほどを「半化粧」させて昆虫たちを引き寄せるという説と二十四節季の夏至の日から十一日目が七十二候の半夏生です。そのころに咲くので半夏生という説があります。どちらも正しい。アカメガシワの花がいっぱい咲いている。その下にいるとちっちゃい虫の羽音がウォン、ウォンと聞こえています。何という虫か?イワタイゲキの葉っぱ赤く色づき始めている。キヨウチクトウもピンクが良く目立ちます。ヤマモモも食べ頃です。

と思われる巣では、順調にヒナが育っている模様で、餌を運ぶ親鳥の姿が見られた。

### 入浜定点観測結果

| 種名      | 数 | 種名    | 数  |
|---------|---|-------|----|
| ホトトギス   | 1 | ヒヨドリ  | 10 |
| ミサゴ     | 3 | ウグイス  | 5  |
| トビ      | 3 | メジロ   | 5  |
| コゲラ     | 1 | キビタキ  | 1  |
| ハシボソガラス | 5 | カワラヒワ | 3  |
| シジュウカラ  | 1 | ホオジロ  | 1  |
| 合 計     |   | 12    |    |

### 【水質】横路会員

塩分濃度は 0.00% ですから海水はこことこ入っていません。F 地点の方へ水がかなりながれていますので山からの伏流水がかなり流れているのでしょうか。PH は B 地点だけ 7.0 で A 地点 6.6、中央 6.3、D 地点 6.4、E 地点 6.8、F 地点 6.8 ですこし酸性気味です。COD は B 地点だけ 6 で他は皆 8 以上。イノシシが荒らしているのがよくわかる。



メジロ (写真: 穂井田)



餌を運ぶミサゴ (写真: 穂井田)

### 【野鳥】穂井田会員

時期的に、美しい姿のキビタキや、普通よく見られるシジュウカラ、エナガなどが巣立ちビナに給餌する姿が見られるのを期待していたが、残念ながらいずれも見ることが出来なかつた。

夏鳥では、ホトトギスとキビタキが遠くで短く轉るのが聞こえただけで、姿は見られず観測できた野鳥の種類も少なく低調な観察結果となつた。76 号で報告のあったミサゴの巣



囀るホオジロ (写真: 穂井田)

## 環境省研修会(ダニ講習)

### 「マダニの生態とその対策について」

日 時：7月6日(土) 9:20～12:00

天 候：晴れ

場 所：宮島市民センター3階研修室

行事推進員：前田

出席者：麻生 今田 岩崎 大西 小方(為)

小方(嗣) 小川 奥田 恩田 金山 川崎 北野

黒木 河野 小林(勲) 小林(み) 佐渡 佐藤

末原 穂谷 中道 野呂田 二神 穂井田

前田 弁田 三戸 村上 元広 森 山本(昌)

横路 吉崎 呼坂 以上 34名

環境省：山崎自然保護官 大高下 AR

講師：広島県立総合技術研究所保健環境センター保健研究部主任研究員 島津幸枝様

宮島にはマダニの吸血源となるシカやイノシシなどが多数生息している。宮島PVの会の活動は宮島での自然観察、環境整備が主であり、マダニに囓まれる恐れがある。マダニについて学ぶため、環境省主催の首記講習会に参加した。参加者は会員34名を含む計37名であった。講師の島津主任研究員はマダニの生態研究、感染症対策等を専門に多方面でご活躍中である。

9時より受付、山崎自然保護官の開会挨拶、大高下ARによる講師紹介後、プロジェクトを使った講演が約1時間あった。内容は、吸血しないと生きていけないマダニの生態、重症化すると死に至る重症熱性血小板減少症候群(SFTS)等のダニ媒介感染症の症状、吸着したマダニの除去方法、マダニに取り付かれるのを阻止する方法であった。

質疑応答では、「虫除けスプレーの成分表示は」、「家ダニと違うのか」、「昆虫や鳥にも取り付くのか」、「病原体を持っていないマダニは赤くなるだけか」、「マダニ感染病が広島県に多いのはなぜか」(問題意識が高く検査数が多いためで、むしろ対策が進んでいるとのこと)など多くの質問があり、大変関心が高いことがわかった。

次に、マダニ取りの野外実習を市民センター近くの「山辺の古径」で1時間かけて体験した。捕獲は、棒に一辺70cmの四角形の白い布を付けた道具を草木の葉や落ち葉に当て付着させる「旗振り法」で行った。予想外に短時間で簡単に捕獲でき、全員で20匹超のマダニの成虫が採取できた。こんなにたくさんのマダニが生息しているということに驚いた。島津講師によると、宮島は特に多いとのこと。市民センターに戻り、捕獲したマダニを顕微鏡で観察した。グロテスクな生き物で足を動かしており、息をのんだ。

最後に、大高下ARから閉会挨拶があり講習会を終了した。

私は今回の講習会に参加して、学んだマダニの怖さをボランティア活動に生かし、「地面に直接座らない。環境整備等で使用した軍手は直接ポケットなどに入れず別保管し、できれば再使用しない。」など実践していくたいと思う。



山崎自然保護官の開会挨拶



島津講師の講演



マダニ捕獲道具の準備



マダニ捕獲実習の状況



捕獲したマダニの成虫



マダニの顕微鏡観察

( 文・写真：河野 )

## 自主観察会(4) (7/30)下見 鳥居周辺干潟調査

日 時：7月 16 日(火)

天 気：晴れ

行事推進員：金山 北野 平田 呼坂

出席者：小方(嗣)、金山、河野、佐藤、呼坂  
以上 5 名

公募観察会の下見をしました。



集合写真

## 嚴島神社前海浜清掃作業 (管絃祭 7/19)

日 時：7月 17 日(水) 13:00～15:00

天 気：晴れ

行事推進員：猪谷 森

出席者：麻生 猪谷 大西 大林 恩田 河野  
小林(昂) 佐藤 末原 前田 増田  
森 吉崎 計 13 名

今日の清掃作業は神社海側部分から鳥居までの作業を神社の方と共同で行った。

昨年度と異なり、神社の床下等にほとんどゴミが見当たらなかった。昨年は台風・集中豪雨などの影響による漂着ゴミが多量にあつたためで、今年は台風などもまだなく、ゴミとしては、”アオサ”的のみが目立っていた。

集めた”アオサ”などのゴミは重機に載せて特定の場所に集めた。

全体として”アオサ”的の量は少ないよう見えたが、実際に集めるとかなりの量があった。

最後に、例年のお祓いをしていただき、集合写真を撮り解散した。



神社の手水鉢のそばから海岸に降りてすぐの場所から清掃を始める。



集めたアオサなど



集合写真

( 文 : 吉崎 写真 : 河野 )



管絃祭の御座船の近くも



大鳥居まで清掃

## 入浜池定点観察②

### ・維持管理作業②

日 時 : 7月 27 日(土) 9:30~12:00

天 気 : 晴れ

場 所 : 入浜池

行事推進員 : 大西 小川 松田 穂井田

出席者 : 大西 大林 小川 恩田 黒木 河野

小林(覗) 末原 穂井田 前田

松田 村上 元広 横路 吉崎

以上 16 名



### 【環境整備】吉崎会員

整備部会は海岸の清掃を行いましたが、カキ養殖用パイプの量は6月22日の時より多いものの、昨年度までに比べると格段に少なくなっていました。午前中に収集したゴミの量はゴミ袋5個分でした。この日は非常に天気が良く、暑い中の作業となりましたが、全員元気に作業を終えることができました。



### 【水質】小川会員

今日は山から水がたくさん流れて池に入っている。（フェンス横の道には水が溜まつていつも靴で歩いていたが今日は長靴でないと歩けない状態でした。）PHも全体的に低い。A地点6.5、B地点6.2、中央6.3、C'地点5.8 D地点6.0 E地点5.8 F地点6.1、塩分濃度は全地点0.00、CODはA地点8以上、B地点4、中央7、山水が入ってくる所のC'地点2、D地点7、E地点6、水が出ていく所のF地点1、水温が低い所のD地点18.4℃、高い所はE地点25.4℃、海水の塩分濃度1.1%（いつもの約半分）

### 【植物】小川会員、大西会員、松田会員

花はハマゴウ、マンリョウ、岩場ではハマナデシコ、キキョウなどが咲いていた。ヒトモトススキは満開でした。実はハスノハカズラ、シロダモ、ハンゲショウ、クマノミズキなどでした。



ルイスハンミョウ (写真：小川)

### 【昆虫】松田会員

トンボはアオモンイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、これらはいずれも縄張りを張り、交尾をしたり産卵をしたりと活発な活動をしています。今日は羽化したばかりのトンボも見られた。多分、梅雨が明けて羽化するタイミングに合ったのでしょう。

他にウスバキトンボ、ハバビロトンボ、コシアキトンボ（腹部の白い部分が空いているように見えるから名付けられた）。これらはため池、水路とか、どぶのようなところでも幼虫で住める種類です。ショウジョウトンボも確認する。蝶々はイチモンジセセリ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、サツマシジミなど。池の中ではトノサマガエル、ツチガエルの鳴き声が聞こえた。砂浜ではルイスハンミョウ、ヤマトマダラバッタも見られ、いずれも絶滅

入浜 野鳥定点調査 9:30~11:30

| 種名           | 数  | 種名           | 数  |
|--------------|----|--------------|----|
| カルガモ         | 2  | シジュウカラ       | 2  |
| キジバト         | 1  | ツバメ          | 1  |
| カワウ          | 2  | ヒヨドリ         | 6  |
| アオサギ         | 1  | ウグイス         | ♂3 |
| ダイサギ<br>(冬羽) | 1  | センダイム<br>シクイ | 5  |
| ウミネコ(筏上)     | 10 | メジロ          | 8  |
| ミサゴ          | 7  | スズメ          | 6  |
| ハシボソガラス      | 1  | セグロセキレイ      | 1  |
| アオゲラ         | 1  | カワラヒワ        | 3  |
| コゲラ          | 2  | ホオジロ         | ♂1 |
| トビ           | 5  |              |    |
| ヤマガラ         | 5  |              |    |
|              |    | 計 22 種       |    |

危惧種です。ハマゴウの花粉だけを使って子育てをするキヌゲハキリバチも見ることができた。



今日は池の中の古い標識を新しく立て直しました。次回からはしっかりと観測できます。ありがとうございました。



④宮島における区分については、平成 11 年宮島町発行「宮島の野鳥」を参考にしました

留鳥 冬鳥 旅鳥 夏鳥



アオサギ 気取って見える？(大西)



ミサゴ若鳥♂ 虹彩黄色(穂井田)

### 【野鳥】大西会員

小鳥が飛び交っているクマノミズキの木がありました。メジロ、ヒヨドリ、センダイムシクイなどが、フライングキャッチで良く熟れた黒い実を食べ歩いて、残りの実はわずかになっていました。センダイムシクイが、この時期にも囀るのを聞くことができました。

上空では、ミサゴが複数同時に旋回していて、可愛い声で鳴き交わす様子や白さが際立っている翼に魅了されました。写真の個体は、若い雄で目の虹彩の黄色までよく写っています。海岸で見かけたダイサギは、嘴の色が既に黄色に移行していて冬羽でした（夏羽は黒色です）

鳥の世界では、季節の移行がとても早いですね。海上の筏ではほぼ留鳥といえるウミネコが羽を休めていました。



ヤマガラ カンコノキで(大西)

( 写真 : 河野 小川 穂井田 大西 )

## 公募観察会:自然 鳥居周辺干潟

日 時 : 7月 30日(火) 12:15~15:15

天 気 : 晴れ

場 所 : 鳥居周辺の海浜

行事推進員 : 金山 北野 平田 呼坂

出席者 : 岩崎 小方(嗣) 金山 北野 黒木  
河野 小林(勣) 小林(み) 佐藤  
末原 兔谷 平田 二神 前田 弁田  
森 山本(章) 呼坂 以上 18名

環境省 : 山崎自然保護官 大高下 AR

参加者 : 9組 大人 11名 小人 16名

昭和 30 年頃、笠岡 (岡山県) の海は宮島以上の干潟。

カブトガニ・シャコ、タコ、カニ、満潮になれば鯛・アナゴ等々豊富な海。6月には伝馬船をあやつりこっそり泳ぐ。今は干拓で飛行場と農場と町に様変わり。

平成 20 年包ヶ浦で 1 泊 2 日の初めての干潟の研修。大鳥居での「アラムシロ貝」(海の掃除屋) の実演にびっくり仰天。前後左右に歩く「豆古武士ガニ」鉄砲エビ。神社平舞台下の「コメツキガニ」「白扇シオマネキ」

「葦原ガニ」。杓子公園沖でのマテ貝の収穫の仕方、初めて観る穴からの飛び出し感激を通りこしました。

この度の母娘の観察会。浜辺に降りた途端

の干潟・小川にうごくカニ・ヤドカリにもう興味深々、手にとりさわぐ母娘の体験。これで今回の観察会成功。

私の 65 年まえの世界。10 年前の大鳥居下の感激の研修と同じ。

「砂ガニ」もよかったです。チゴガニの万歳に圧巻。マテガイに歓声。私のすきな「マメコブシ」。

研修より体験。今回、あらためてそう思いました。



観察会風景(1)



観察会風景(2) マテ貝の観察



観察会風景(3)



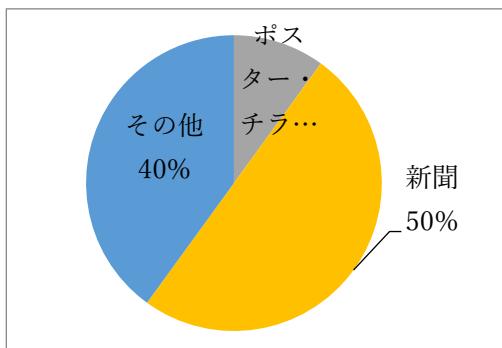
観察会風景(4)



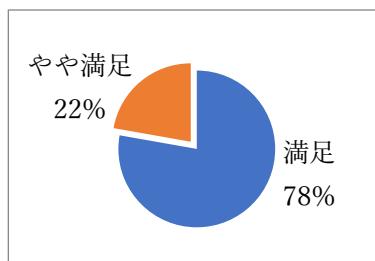
観察会風景(5)観察ノート作成

( 文:佐藤 写真:河野 )

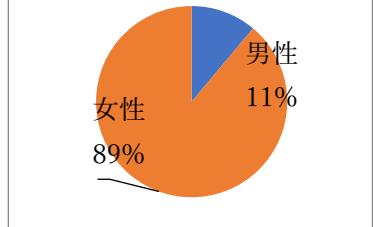
【観察会参加回数】



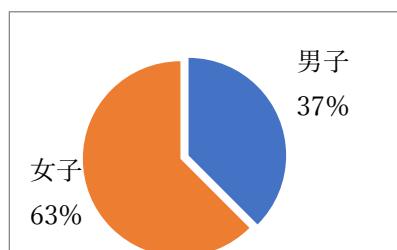
【行事を知ったのは】



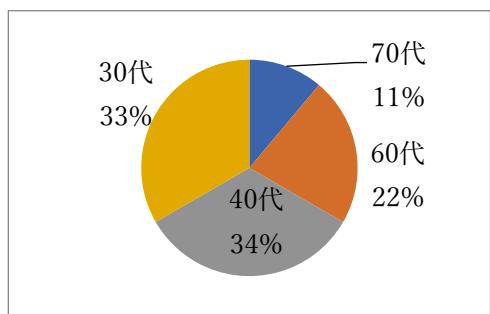
【行事の感想】



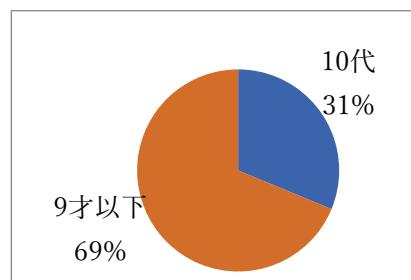
【参加者の性別】



【子どもの性別】



【参加者の年代】



【子どもの年代】

## ◇行事に対する感想・ご意見・要望等

・多くのボランティアさんがおられ、その都度説明が聞かれてよかったです。テキストがあり覚えやすかったです。孫との触れ合いができ良い思い出ができました。孫がまた来たいと言っています。

・講師の方々が多かったので、小グループに分かれての行動も良かったかなと感じた。きれいなテキスト作成してあり説明も写真等で行っていただいたが、テキストページに沿っての説明があるとなお分かりやすい。説明等にハンドマイクがあると子供もより注視していたかと思った。

・素人が歩くだけでは見つけられない(見れない)生き物をたくさん見る機会を作ってくれてもらえてとても良かったです。その場その場でのお話が分かりやすく大人でもとても為になりました。子供も実際に捕まえ、触れて大満足でした。また、その場その場で逃がすことで生物には適した場所がある事も知るきっかけになったと思います。

暑さが厳しく、午後一番暑い時間に1時間半、ちょっときつかったです(大人は)。子供は十分満足でした。お茶を飲み切ってしまったので(自販機がなくて)お茶をいただけたのがとても助かりました。

・知らない生物の生態を知ることができた。丁寧に教えて下さり分かりやすかったです。暑い中、子供たちにご協力いただき感謝します。親子で楽しめました。

・詳しい生態まで教えて下さり、子供はもちろん大人も楽しかったですバケツ、掘るもの等、持参しても良かったかな…。また、参加したいです。

・面白い生き物を見せてくれたり、実際にとの体験をさせてくれたので良かったです。テキストは見る時間がなく見ていませんが、講師のみなさんがとてもよく教えてくれてよかったです。子供たちも楽しんでいました。

・実際にカニやマテガイをとらせてもらえて

子供たちの良い体験になりました。  
また、何かあれば知りたいです。

・ボランティアの方々に感謝、ありがとうございました。

(まとめ：舛田)

## 自然公園クリーンティー 清掃作業

日 時：8月3日（土） 9:00～10:30

天 候：晴れ

場 所：小なきり海岸および包ヶ浦  
～宮島桟橋の道路

行事推進員：川崎 野呂田

参加者：岩崎 大林 恩田 川崎 河野 小林(舅)  
嶋谷 兎谷 野呂田 檜和田 穂井田  
前田 吉崎 以上 13名

環境省広島事務所：山崎自然保護官

廿日市市職員：7名

宮島を美しくする会（宮美会）：会員 7名

容赦なく照りつける真夏の太陽の下、作業開始前からうんざりするような暑さでした。

定刻 9:00 に主催者の環境省の山崎保護官の挨拶のあと、廿日市市宮島支所の松本環境産業建設担当課長から作業の説明がありました。

我々、PVは2班に分かれ、3名(大林、小林、兎谷)は包ヶ浦と宮島桟橋の間の道路の清掃に、その他の 10 名は小なきり海岸の清掃に従事しました。我々とは別に宮美会の方々は、既に早朝 8:30 から作業をはじめているとのことでした。

小なきり海岸の砂浜はハマゴウが生い茂り、波打ち際から 3m程度しかなく、ほとんどゴミはありませんでした。回収したゴミはゴミ袋で 5 袋程度でした。

猛烈な暑さの中、無事に作業が終えられたことは何よりでした。

## \*\*\* 投 稿 ① \*\*\*

## 俳句

神の島浦に咲きたる半夏生

安芸周防わかつ小島の青葉潮

枇杷熟るる瀬戸の小島の捨畠

捨て畠の枇杷の甘さや瀬戸の島

神の島潮満ちて浜に孕み鹿

## 大林 實

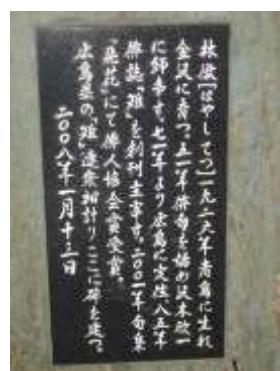
今回、みせんに俳句を投稿してもらった大林会員と大聖院を訪れた。

大聖院境内には、俳人「林徹(はやし てつ)」の句碑が立っている。

『潤ひて 産毛に満ちて 袋角 徹』  
大林会員の師であり 俳句結社「雉」の主宰者であった。



大聖院境内 俳人「林 徹」の句碑と大林会員



大聖院境内 句碑

( 文・写真 : 岩崎 )



山崎自然保護官の挨拶



小なきり海岸の清掃



集合写真



ハマゴウ

( 文 : 川崎 写真 : 河野、川崎 )

## \*\*\* 投 稿 ② \*\*\*

## 能美島 砲台跡見学の記

いつも行く鷹ノ巣砲台の厳島海峡を挟んだ対岸の能美島にも広島湾要塞地守衛のため同時期(明治 31 年着工)の砲台跡があり、5 月の初め見学に出かけました。

三高の港の 4 キロほど南、その名も砲台山(402 メートル)の頂上付近に三高山砲台跡として整備保存されています。280mm 榴弾砲 6 基の台座跡、監視所は鷹ノ巣砲台と同じもの、また兵舎跡 炊事場跡が残っています。

PV の会の行事としては平成 15 年と 21 年に行ってますが、鷹ノ巣砲台との対比で学習したいものです。



三高山砲台炊事場跡



三高山砲台台座跡



三高山砲台監視所跡

海岸のがんね鼻には岸根砲台と鶴原砲台があり、まさに海峡を通る船を鷹ノ巣低砲台と共に狙っています。



岸根砲台跡



砲台山より弥山を望む 右下が岸根鼻

( 文 写真 岩崎 )

## \*\*\* 投 稿 ③ \*\*\*

「マダニにかまれる これは怖い！」

研修会を前にして次のような体験をしました。参考にして下さい。

## 状況：

2019年5月25日(土) 公募観察会(鷹ノ巣高砲台跡)において、方位観測所に登る階段の落ち葉清掃の際軍手をして落ち葉を取り除いていた。作業終了後この軍手をポケットに収納して帰宅した。この時、マダニが軍手→衣服→太ももに移動し噛みついたと推定する。(ただし、確証なし)

## 症状：

① 5月27日(月) 左足太ももに虫にかまれたあと 3 か所を見つけた。この時赤く腫れている大きさは直径 3cm。1 か所は少しへこんだ黒いカサブタができていた。(後

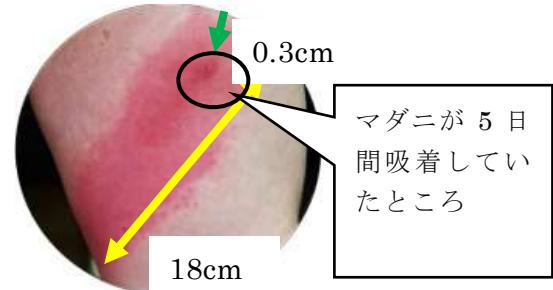
でわかったことだが、マダニが噛みついていた)

- ② **5月30日(木)** 腫れている大きさは直径10cmくらいに拡大した。大きく腫れても痛み、熱はほとんどなく、少し痒みがある程度。全く日常生活に影響なし。腫れが拡大したので、主治医(内科医)の診断を受け、化膿止めとアレルギー薬をもらい、飲む。結果的には最初から専門医(皮膚科など)にすべきだった。
- ③ **5月31日(金)** 腫れている大きさは直径10cm以上と広がり、黒いカサブタと思われるところが盛り上り白く変色した。膿がたまつたと思い、白いカサブタを取った。なんとこれがマダニであった。写真のように、マダニは足を動かし、移動する。太ももに5日以上噛みついていたことになる。
- ④ **6月2日(日)** 腫れはさらに拡大し重症化した。急遽、休日の当番医であった皮膚科を受診した。医師の診断はマダニにかまれた症状であった。怖いのはマダニが媒介するSFTSと日本紅斑熱であるとのこと。潜伏期間が6日~2週間と2日~8日で発症しておらず、感染したかどうかは不明。とりあえず、日本紅斑熱の特効薬(ビブラマイシン)とダニ毒薬(オロパタジン)を5日分もらい、服用。
- ⑤ **6月3日(月)** この日腫れが最大となつた。その後、腫れが徐々に引いていき、5日後に半分になり、完全に引いたのは2週間後の16日(日)であった。
- ⑥ **6月10日(月)** この日、SFTSの最大2週間の潜伏期間が過ぎた。一安心です。本当に怖い思いをした。

### ( 参考 )

- ・SFTS(重症熱性血小板減少症候群)  
—昨年広島県で3例発生し、1例は死亡。  
病原体はウイルスで、潜伏期間は6日~2週間。高熱・内出血で死亡に至る場合あり。  
特効薬がないため、発症したら入院し経過観察するしかない。
- ・日本紅斑熱—病原体はリケッチャで、潜伏期間は2日~8日。高熱・全身発疹が出る。特効薬(ビブラマイシン)がある。ツツガムシ病と似た症状がでる。

・ダニ毒によるかゆみ・はれ-----アレルギーで広範囲に腫れる場合あり。薬はオロパジン。今回はこれで済んだ。おそらく過去に1回または複数回マダニに噛まれたことで、ひどいアレルギーが出たとのこと。



6月2日 14時1分撮影

( 文・写真 : 河野 )

### ◇ 編集後記 ◇

77号は投稿も多く、凝縮しても過去最高のページ数になりました。

6月にオオヤマレンゲ(モクレン科)を求めて寂地山(1337m)と冠山(1339m)へ。出会いました。実に可憐です。山口県では絶滅危惧種に指定されています。( 麻生 )



瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局: 環境省 中国四国地方  
環境事務所 広島事務所  
(〒730-0012)  
広島市中区上八丁堀6番30号  
広島合同庁舎3号館1階  
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455